

授業科目(ナンバリング)	アカデミックジャパニーズⅡ A (CA103)			担当教員	※下田 耕一		
展開方法	演習(遠隔)	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
日本語を総合的に学ぶため、日本語学習の機会が乏しかった留学生に対して、「聞き取り」や文法に重点を置き、アクティブラーニングの方法をもとにコミュニケーション能力の向上を図ることをねらいとしている。このことを通して日本語能力の中級から上級への円滑な移行、進展を目指す。							② ③ ⑧ ⑨ ⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	正解を求めるだけでなく、「よく考える」ことを通して積極的に日本語を読む・聴く・話す・書く活動を進めることにより、コミュニケーション能力を高めることができる。				発表 授業態度・参加度	15%	
情報収集、分析力	聞き手の側に立ち適切に分析することにより、日本語の表現・理解の修得を図り、レベルアップのための方法を見い出すことができる。				課題レポート 随時試験	30%	
コミュニケーション力	場に応じた音声言語による表現の工夫により、より高い日本語能力を身に付けるとともに情報発信力を付けることができる。				復習小テスト	25%	
協働・課題解決力	的確な語彙・語句の理解と活用を図り、言葉の決まりを理解して、日本語の特性の理解に努めるとともに相互の考えを発表することができる。				随時試験	20%	
多様性理解力	文化の違いを理解し多様な考えがあることを理解することを通して、自己の意見を適切に発表する能力を身に付けることができる。				発表 課題テスト	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の理解の定着を診断するために遠隔授業のため随時試験として、復習小テストを数回行い、結果は素点と評価(A～D)を学生にフィードバックして周知した。 ・発表は、プレゼンやグループによる討議などを中心に行い、実践的な言語能力をみる評価として実施する。 ・課題レポートについては、授業の中で説明する。 							
授業の概要							
<p>総合的な日本語学習に慣れ親しませ、系統的に進めるため、①②③のステップによる学習活動を行う。</p> <p>① 学習テーマに取り組む動機付けの活動、② 文章を読み、大意をつかみ、内容理解を進め理解を深める活動、③ ②の活動を応用・発展させる速読や資料を読んで考察する活動、などにより多面的な理解とその拡充を図る。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『新 生きた素材で学ぶ 中級から上級への日本語』(鎌田修他著 The Japan Times 社刊)</p> <p>参考書：適宜、紹介する。</p> <p>指定図書：教科書と同じ。(留学生には別途、授業中に指示する。)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本に留学している期間はもとより、将来の職業等においても相手や周囲の人々の心情やメンタリティを思い、適切な意思の疎通を図り、コミュニケーション能力を身に付けることが望まれる。このことを十分に認識し、積極的に取り組んでほしい</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1 2	ユニット1 「自己紹介と本当の自分(1)」	・自己紹介の仕方と、「自分とはなんだろう」の読解	予習 P10～18 復習 印象づける自己紹介を考える
3 4	ユニット1 「自己紹介と本当の自分(2)」	・新聞記事を読んで名前について考える ・「重要表現、文法・語彙練習」の演習・理解と短文作成	予習 P19～25 復習 助詞の識別、重要表現の理解
5 6	ユニット1 「自己紹介と本当の自分(3)」	・ユニット1全体の重要事項の理解と確認	復習 公的・私的自己の理解、文法・語彙の理解
7 8	ユニット2 「若者の自己評価(1)」	・自己評価の理解と、「日米大学生の比較」の読解	予習 P28～34 復習 自己を客観的に見ること、自己肯定の理解
9 10	ユニット2 「若者の自己評価(2)」	・新聞記事(「自分ダメ」日本突出)について考える ・「重要表現、文法・語彙練習」の演習・理解と短文作成	予習 P35～42 復習 動詞・助詞の識別、重要表現の理解
11 12	ユニット2 「若者の自己評価(3)」	・ユニット2全体の重要事項の理解と確認	復習 コミュニケーションスタイルの理解
13 14	ユニット3 「ジェンダーを考える(1)」	・ジェンダー(社会文化的な性差)の理解、「男の料理市民権」の読解	予習 P44～50 復習 ジェンダーと時代変化への理解
15 16	ユニット3 「ジェンダーを考える(2)」	・家事・育児や摂食行動の実験について考える ・「重要表現、文法・語彙練習」の演習・理解と短文作成	予習 P51～57 復習 動詞・名詞の理解、重要表現の学習
17 18	ユニット3 「ジェンダーを考える(3)」	・ユニット3全体の重要事項の理解と確認	復習 区別と差別の理解、文法・語彙の理解
19 20	ユニット4 「ことばと文化(1)」	・非言語(態度など)による意思疎通の理解、「日本人は『ノー』と言わない？」の読解	予習 P60～65 復習 自国と外国の文化の違いへの理解
21 22	ユニット4 「ことばと文化(2)」	・故国を離れて気づく独特の文化・生活習慣を考える ・「重要表現、文法・語彙練習」の演習・理解と短文作成	予習 P66～74 復習 副詞・形容詞の識別、重要表現の理解
23 24	ユニット4 「ことばと文化(3)」	・ユニット4全体の重要事項の理解と確認	復習 異文化への理解、文法・語彙の理解
25 26	ユニット5 「心と体のバランス(1)」	・心身の健康とことわざへの理解、「健康病が心身をむしばむ」の読解	予習 P76～84 復習 健康病の原因の理解
27 28	ユニット5 「心と体のバランス(2)」	・心身の健康に対する認識を深め、話し合う ・「重要表現、文法・語彙練習」の演習・理解と短文作成	予習 P85～92 復習 動詞、類似表現の理解、慣用句の理解・活用
29 30	ユニット5 「心と体のバランス(3)」	・ユニット5全体の重要事項の理解と確認	復習 健康の増進への理解、文法・語彙の理解
31	定期試験		